

大阪工大通信 およど

みらいをつくる つたえる まもる。
大阪工業大学
OSAKA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

編集・発行/学生部学生課
〒535-8585 大阪市旭区大宮5-16-1
E-mail: OIT.Gakusei@joshu.ac.jp
Tel: 06-6954-4651 Fax: 06-6951-7760

およどWebsite (本号をはじめバックナンバーをアップ)
<https://www.oit.ac.jp/japanese/public/magazine.html>

OIT Website▶<https://www.oit.ac.jp>

大阪工業大学通信

およど No.294

2025年3月

さらなる成長を目指して

皆さん、ご卒業・修了おめでとうございます。学修や研究活動に注力されるとともに、さまざまな経験を積み重ねてこの日を迎えられましたことに対し深く敬意を表します。

さて、皆さんは、その学生生活において新型コロナウイルスの影響を大きく受けたことかと思います。一方で、経験したことのない事象に対する適応力という、人間として必要な力を自然と身に付けることができたのではないのでしょうか。新型コロナウイルスによるパンデミックがあたかも遠い昔のように思えるほど社会情勢は目まぐるしく変化しています。最近では、円安や物価の高騰といった私たちの日常生活に直接影響を及ぼすような状況が続いています。予測困難と言われる時代を生き抜いていくには、自身の行動規範がぶれない心の強さと、臨機応変に物事を考える心のしなやかさが必要となりますが、学生生活の中で経験されたさまざまな出来事を通じてその素養は身に付いているはずですよ。

社会へ出られた後も、皆さんは大小さまざまな困難に直面するでしょう。その際には、本学での学びを通じて成長したという誇りと自信をもって事にあたってください。また、同時に、他者の意見を聞いてみることも重要です。学生生活の中で築いてきたネットワークを最大限活用し、さらなる成長を目指してこれからの人生を歩んでください。

健康にはくれぐれも留意され、大阪工業大学の遺伝子を持つ皆さんがそれぞれの分野で活躍されますことを心より願っています。

大阪工業大学 学長 井上 晋



CONTENTS

P2
卒業生に贈る言葉

P3~6
卒業生特集

P7
アイスホッケー部が
インカレの氷上で格闘 ほか

P8
私の学生時代を振り返って ほか

卒業生に贈る言葉



副学長
(教育・研究改革、学生支援、産学連携担当)
芦高 恵美子

仲間との絆、そして輝かしい未来へ

ご卒業・修了おめでとうございます。学業はもちろん、クラブやプロジェクト活動、留学などを通じて大きく成長されたことと思います。その過程で、一人では解決できない課題も、仲間と力を合わせることで乗り越えられることを学ばれたことでしょう。これからの道には多くの挑戦が待っていますが、大学で培った知識や経験、仲間との絆が、必ず力強い支えとなるはず。自信をもって前に進んでください。皆さんのさらなる成長と輝かしい未来を祈念しています。



学長補佐
佐野 睦夫

仕事は楽しんでやるのが一番！ 好きでやる仕事は二番

ご卒業・修了おめでとうございます。
これから社会に旅立つ皆さんに、はなむけの言葉として、孔子の「これを好む者は、これを楽しむ者に如かず(及ばない)」という格言を贈ります。
これは「それがいくら好きにな者であっても、それを楽しむ者にはかなわない」という意味です。
これから社会人となり、仕事で緊張する日々も多々あると思いますが、まずは思案するよりも、今に集中して、その一瞬を楽しんでください。皆さんのご活躍を祈念しています。



工学部長
(研究科長兼任)
森實 俊充

素晴らしい未来があなたの前に

ご卒業・修了おめでとうございます。学校生活が終わる気持ちはいかがでしょうか？小学校入学から大学卒業・大学院修了まで16年から21年の間、いろいろなことがあったかと思います。でも、これから社会に出ていく皆さんにとっては、これからが本番です。良いことも悪いことも次々起こります。今後もこの社会の変化に順応しながら、立派に活躍されることを楽しみにしています。皆さんの前途洋々たる船出を心からお祝い申し上げます。



ロボティクス&デザイン工学部長
(研究科長兼任)
井上 明

変化を楽しもう！

ご卒業・修了おめでとうございます。学生生活も終わり、新たな生活がスタートします。
変化を楽しむことで、今まで経験したことのない新しい世界が広がります。新しい環境や出会いは、自分をさらに成長させるチャンスです。失敗を恐れず、すべてを経験として受け入れることで、豊かな人生の糧となるでしょう。未来の自分を信じて、素晴らしい人生を築いてください。社会で活躍する皆さんの姿を梅田からいつも応援しています。



情報科学部長
(研究科長兼任)
塚本 勝俊

あなたの輝く未来に向けて

ご卒業・修了おめでとうございます。まずはご家族、これまでご支援くださった方々に感謝の意をお伝えください。皆さんは新しい情報技術で社会を変革する牽引者として大変期待されています。社会に出るとこれまで以上に学び、探究する姿勢が求められます。そのとき大学・大学院で培った思考力と創造力は、かけがえのないベースとなります。どんな困難にぶつかってもどうか自信をもって切り開いて行ってください。未来にわたって輝く皆さんのご活躍を期待しています。



知的財産学部長
(研究科長兼任)
五丁 龍志

人生楽あれば苦あり

ご卒業・修了、誠におめでとうございます。
皆さんが社会に羽ばたくおめでたい瞬間を迎えるタイミングであると同時に、用意された学びの場から、実践の場へ切り替わる、一大転機を迎えました。
時には大きな壁に遭遇して苦戦し、時には大成功して仲間と心の底から喜んだり、これまでの人生とは一味も二味も異なるスパイシーな体験を、沢山されることと思います。
一見すると、波風のない人生、山も谷もない日常の方が楽そうです。しかし、風がなければヨットは進めません。山や谷があるからグンとスピードを増して普段よりも高い丘に楽に登ることもできる。無風平坦では、きっと景色も変わらずオモロくない。
ここからの人生、スパイシーなイベントを楽しみながら、ますますの成長を遂げ、ご活躍されることを期待しています。

卒業生特集

大きく成長した4年間

文化会



ウインドアンサンブル
工学部
機械工学科

三木 信太郎

▶就職内定先

象印マホービン株式会社

コロナ禍で開催した定期演奏会

私が課外活動で印象に残っていることは、コロナ禍で定期演奏会を開催したことです。大学に入学した2021年はコロナ禍の真っ只中で、同年の冬に開催する定期演奏会では入念な感染対策を講じる必要がありました。大学と何度も対話を重ねた結果、無観客・オンライン配信で演奏会を実施しました。開催まで苦心しただけに無事に演奏会が終演したときの達成感はとても大きかったです。



依頼演奏を通して学んだ目的達成力

ウインドアンサンブルはいわゆる吹奏楽部であり、学外からの演奏依頼を受けることもたくさんありました。そこで学んだことは、「目標を達成する力」です。演奏を依頼してくださった方に満足いただく演奏をするためには、何が必要かを常に考えながら活動していました。こうした過程を通じて、社会人になっても、誰かのためになる仕事をしたいと考えるようになりました。

人々の生活を支えるものづくり

大学を卒業した後は4年間の課外活動で得た経験を生かし、人々の生活を支えるものづくりがしたいと考えています。日々の暮らしの中で身近にある家電に注目し、4月からは希望していた家電企業で専門職として働きます。私が開発した製品が人々の暮らしを豊かにすることを目指して、課外活動はもちろん学業を通して培った知識や知見を生かし、全力で仕事に取り組みたいです。



充実した4年間

体育会



硬式庭球部
工学部
建築学科

千代 迅人

▶就職内定先

大和ハウス工業株式会社

全てを経験したリーグ戦

4年間の課外活動を振り返ると、特にリーグ戦では紆余曲折があったと感じます。

1年生の時はコロナ禍で開催されず、2年生で出場した際は現リーグに残留という結果でした。主将として挑んだ3年生のリーグ戦では下位リーグ降格というショックを味わいました。このままではいけないと、部員の結束力を高めるとともに1人1人が技術力の向上を目指して練習を重ねる日々を送りました。

4年生で迎えた試合では努力の成果が実を結び、上位リーグへの昇格を果たすことができました。残留、降格、昇格と、悲しみも喜びも全てを経験し、大学生活で忘れられない思い出となっています。



今を頑張る

本来、主将は1年で交代しますが、私は幸運にも2年間務めました。だからこそ、降格という悔しい結果も、それを晴らすべくリベンジすることも主将として経験することができました。貴重な経験だったと思っています。

しかし、誰にでも訪れるものではないから幸運と呼ぶのだと感じています。今回、私がチャンスに恵まれたのは日々の練習を積み重ねてきたからではないかと考えています。何事においても今のこの一瞬一瞬を精一杯努力することで運気は上がるということを学びました。

健康第一

4月から始まる社会人生活の中で挑戦したいことはたくさんありますが、まずは健康第一と考えています。仕事において成果を出すことも何かに挑戦することも、健康な体があつてこそだからです。

大学生活からは生活スタイルが一変すると思いますが、規則正しい生活を心掛けるとともに適度な運動も取り入れ、心身ともに健やかな日々を送ってまいります。仕事でも私生活でも今のこの一瞬一瞬を大切に精進していきたいです。



大学生活で得たこと

モノラボプロジェクト



ソーラーカープロジェクト
工学部
機械工学科

寺田 航

▶ 就職内定先

東レ・カーボンマジック株式会社

ここでしか出来ない経験

ソーラーカープロジェクトの活動でドライバーとして公式大会に出場した記憶は強く心に残っています。チームの代表として車体のステアリング（ハンドル）を握り、全国のライバルチームに挑んだ経験は後にも先にもありません。やりがいや達成感の大きい経験でしたが、チームメンバーの心強いバックアップがなければ得ることはできませんでした。車体を走行可能な状態にするだけでも大勢のチームメンバーのサポートが必要であるということは忘れてはいけないと思っています。



実践的なモノづくり

学生プロジェクトのモノづくりでは、構想・設計・発注依頼・製作・組立の全工程を学生が管理し進めます。人を乗せても安全が保障される車体を設計することや、決められた予算や日程の中で材料を発注したり、工程を管理したりするなどモノづくりの知識や技術だけではない能力を身につけることができます。大人数のチームの中で、自分がやるべきことを常に考え、実行に移す力は私を大きく成長させてくれました。



再スタート

数え切れないほどの思い出が詰まった4年間という長い学生生活が終わってしまいました。春からは社会人となり、また新しい人生のスタートとなります。今まで長い期間一緒に過ごしてきた仲間と別れる寂しさもありますが、大学4年間で培ってきた経験や関係する方々への感謝を忘れず、新しい気持ちで頑張っていきたいと思っています。



忘れられない4年間

留学生



工学部
生命工学科

ミシェル オードリー

▶ 就職内定先

森永乳業株式会社

自分の世界が広がっている

大学3年生の時、私は台湾の国立台湾科技大学で開催された国際PBLに参加しました。そこで言語能力を活かし、授業や文化体験を通じて多くの事を学びました。知識や技術だけでなく、異なるバックグラウンドを持つ人々と交流することで、コミュニケーション能力が向上したと感じています。また、4年生の時には受け入れ担当として再びPBLに参加し、台湾でできた友達に再会することができ、とても嬉しかったです。この経験を通じて視野が広がり、貴重な経験を積むことができました。一生忘れません。

前向きに準備すること

就職活動は難しいと感じることが多いです。特に面接では、自分自身をよく知り、企業のことも理解することが大切です。説明会やインターンシップなどから情報を集めることは大事ですが、実際に面接の練習をしないとうまくいかないこともあります。練習を重ねることで完璧にはなくても自信がつき、その自信が緊張を和らげ、面接を乗り越える力になります。また、専攻外の分野にも目を向けることで、選択肢が広がり、就職活動をスムーズに進めることができます。

笑顔にしたい

私は将来、世界中と接する仕事をしたいです。特に、安全で美味しい食べ物を提供する仕事がしたいと思っています。食べることが大好きなので、色々な国に行って、食文化を学びながら、みんなに安心して食べてもらえる食品を提供したいです。食事を通じて、みんなの笑顔を見ることができれば、幸せだと思います。



経験の4年間

梅田キャンパス



ロボティクス&デザイン工学部
システムデザイン工学科

西岡 小晴

▶就職内定先

三菱電機株式会社

進取果敢

大学生活では、「面白そう!」を軸にさまざまな挑戦をしました。RDクラブや国際PBL、奈良県川上村での課外活動、そしてSA (Student Assistant) などに取り組み、多くの経験を得ました。挑戦を重ねる中で、自分の価値観が広がり、多角的に物事を考える力が養われたと感じています。何事も好奇心を持って行動することの大切さが実感できた充実した大学生活でした。



就職活動は自分と向き合う時間

就職活動では、最初からやりたいことが明確でなくても大丈夫です。私も多くの職種や企業に挑戦する中で、自分の就職活動の軸を少しずつつけていきました。大切なのは、自分の興味や価値観に向き合いながら進めることです。この期間は、自分の将来を考える貴重な機会です。迷いや不安は成長の糧になります。さまざまな業界や職種に目を向けることで、新たな発見も見つかります。前向きに取り組んでください。

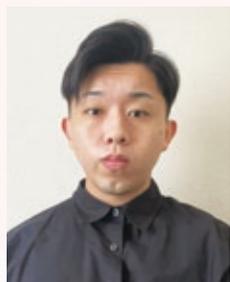
充実した日々を!

私の夢は、大学生活で得た行動力を活かし、常に面白く充実した日々を送り続けることです。社会人になって忙しくても、隙間時間を見つけて好奇心を持ちながら新しい挑戦をしていきたいと思っています。自分の興味があることを追い求め、多様な経験を通じて成長し続けることが、私にとって理想的な人生です。自由な発想で柔軟に生き、毎日を楽しみ過ごしていきたいです。



大学生活での学び

枚方キャンパス



情報科学部
データサイエンス学科

曽我部 大輝

▶進学先

大阪工業大学大学院
情報科学研究科 情報科学専攻 博士前期課程

研究を通じて得た学びと成長

研究活動を通じて、私は多くの学びと経験を得ました。企業からの依頼を受けて始めた研究では、実社会の課題解決を目指しながら進めることが求められ、分析力や論理的思考力を磨くことができました。そして、学園祭では研究成果を発表し、来場者や審査員から高い評価をいただき、校友会会長賞を受賞することができました。この経験は、プレゼンテーション能力や、コミュニケーション能力の大切さを実感する機会となりました。また、研究過程で直面した課題や失敗を乗り越える中で、粘り強さと柔軟な対応力を身につけることができました。

実践的な学びを通じた成長

大学での授業は、グループワークを主に取り組む実践的なスタイルが多く、議論や発表の機会を通じて多くのことを学びました。PBL型授業では、仲間と協力して課題に取り組む中で、問題解決能力やコミュニケーション能力を磨くことができました。印象に残っているのは、実社会の課題をテーマにしたプロジェクトで、意見を出し合いながら最善の解決策を模索するプロセスです。仲間との対話を通じて、多様な視点や考え方に触れることで、自分の視野を広げるきっかけとなりました。

計画力で充実させた学生生活

私の学生生活は、アルバイトと課題や研究等を両立する多忙な日々でした。そのうえ、一人暮らしのため身の回りのこともしなければならず、限られた時間を効率的に使うにはスケジュールの調整が必要不可欠でした。課題や研究の優先順位を明確にして計画的に進める一方、アルバイトではシフトの調整を徹底しました。一人暮らしでは、生活費や家事を管理しながら、時間を有効活用する力を養いました。忙しい中でも、自分に合ったスケジュールを作ることで余裕が持てる時間を確保し、日々のタスクを効率的にこなすことができました。この経験を通じて、計画性と自己管理能力の重要性を深く実感しました。

卒業生特集

貴重な経験ができた学生生活

大学院生



知的財産研究科
知的財産専攻
専門職学位課程

上野 夏波

▶ 就職内定先
ソニーミュージックグループ

大阪工業大学でしかできないこと

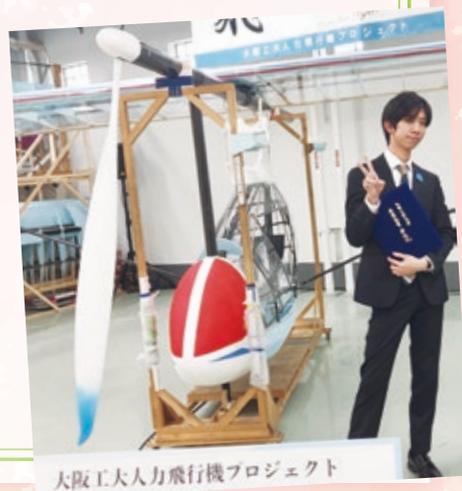
大学・大学院を通じ、「大阪工大」でしかできないことにたくさん取り組めたことは、自身の大きな財産だと感じます。読売テレビ放送「鳥人間コンテスト」出場を目指し活動する「人力飛行機プロジェクト」への参加や、ゼミで発明を考え特許出願を目指す「パテントコンテスト」への参加、各種交流会でのさまざまな企業の方との交流など、大阪工大でしかできない経験をたくさんすることができました。この経験は、今後の人生に良い影響を与え続けてくれると思いますし、今後もさまざまな物事に積極的に取り組みたいです。

「行ける」と「行きたい」は違う

就職活動では、1つの業種に絞らずさまざまな企業を受けました。選考を進めていく中で、業界・企業によって風土・性格が全く異なることを痛感しました。「自分自身に合っている企業」を探すためにも、幅広い分野の業界、企業に挑戦してみてください。また、自分の「行ける」会社と「行きたい」会社は全く異なるので、「行ける」企業で満足せず、自分が納得のいく「行きたい」企業に出会えるまで、就職活動に取り組んでみるのも良いかもしれません。

コンテンツのさらなる発展の一助に

今後は、さまざまなエンタテインメントに触れて見識を広めつつ、大学・大学院で学んできた知的財産の知識を生かしながら、音楽・アニメなどのコンテンツの活用・保護に携わり、コンテンツ王国・日本の更なる発展に貢献できればと思います。



大阪工大人力飛行機プロジェクト



都市デザイン工学科 国内研修旅行 (豪雨や地震による被災地の視察)

工学部と近畿建設協会は、地域社会の発展と人材育成に寄与するため、2023年7月に連携協定を締結しました。これを契機に、都市デザイン工学科は国内研修旅行を企画し、豪雨や地震による被災地の視察を行っています。2023年10月には、2011年の「紀伊半島豪雨」による深層崩壊発生現場(奈良県南部地方)を視察し(1泊2日)、3年次生を中心に21人の学生が参加しました。また、2024年の10月には、その年の「能登半島地震」や「奥能登豪雨」による被災地を視察し(2泊3日)、3年次生を中心に24人の学生が参加しました。学生にとっては、初めての被災地視察であり、特に、液状化による建物の被害(石川県河北郡内灘町)や5mもの海岸隆起(同県輪島市)、さらに道路盛土の崩壊現場(のと里山海道:同県七尾市)が強く印象に残った様子で、都市デザイン工学科での学習意義や自身の将来像を考える良い機会となりました。



海岸隆起



液状化による建物の被害



道路盛土の崩壊



情報科学部クリスマスフェスタを 開催しました！

12月17、19、20日の3日間、情報科学部課外活動団体による「クリスマスフェスタ」を開催しました。

初日の17日はウインドアンサンブルが演奏し、軽やかな音色と楽器の調和が奏でる美しいメロディーで観客を魅了し、会場を温かな雰囲気包み込みました。

2日目の19日はストリートダンス部がダイナミックなダンスパフォーマンスを披露し、力強いステップと華麗な技で観客を盛り上げ、会場の熱気は最高潮に達しました。更に、息の合った演技が会場全体を一体感で満たし、大きな歓声が上がりました。

最終日となる20日は情報科学部軽音部が演奏し、各パートのエネルギーあふれる演奏でクリスマスムードを盛り上げてくれました。観客は素晴らしい演奏に包まれ、心温まるひとときを過ごしました。

今年も多くの学生の協力により、素晴らしい「クリスマスフェスタ」を実現することができました。





ロボティクス&デザイン工学部は エヌビディア合同会社と 初の連携授業を実施しました

ロボティクス&デザイン工学部は、エヌビディア合同会社(以下、NVIDIA)とモノづくりや高度専門技術者の育成をテーマに初の連携授業を実施しました。

本学は昨年8月に同社と連携協定を締結し、本連携のもと、システムデザイン工学科の「AI・XR応用(大須賀美恵子教授)」の第5・6・8回の授業で、NVIDIAの社員に講義いただきました。

第5回は、生成AIの基礎と活用事例の講義から始まり、その後学生はテキスト、画像、3次元モデルなどを生成するAIを体験、その体験から現状の生成AIの適切な使い方についてグループに分かれて議論しました。第6回は、デジタルツインの基礎と3Dワールド構築とシミュレーションを共同で行えるエコシステムOpenUSD(Universal Scene Description)の基礎に関する講義が行われました。第8回は、産業界でのデジタルツインの活用事例やインダストリアルデジタルツインを支えるテクノロジーの講義の後、第6回に取り上げたデジタルツインの活用例と課題をグループごとに議論しました。



第5回、連携授業の初日を担当した廣岡氏(エヌビディア合同会社)



第6回、デジタルツインについて説明する梅澤氏(同)



第8回、グループワークでデジタルツインの活用課題について学生と意見交換する高橋氏(同)



医療環境の改善を志向した 医看工芸プロジェクトの実践!

知的財産学部・吉田研究室では、医療環境の改善を志向した医療機器・サービス・環境デザイン開発のアイデア創出の場面にフォーカスをあて、医療現場における課題に対して、工学、デザイン学、知財戦略といった専門分野のアイデアを組み合わせ、アイデアの具現化と実証により、社会実装することを目的とする学際的プロジェクトを行なっています。

第6期を迎えた2024年度は、医学・看護・工学・芸術・知財を専攻する20名が医療現場を観察し、「対話・共感・観察」のプロセスから問題を発見・定義し、それぞれの専門を活かしながら柔軟な発想で解決策を提案しました。その結果、Kansai Students Pitch Grand Prix 2025で入賞、世界知的所有権機関(WIPO)日本事務所主催Show & Tellプレゼンテーションコンテスト、GOOD DESIGN NEW HOPE AWARD 2024に出品するなど、社会実装にむけて日々取り組んでいます。



薬物乱用防止・闇バイト啓発講演会・課外活動団体総会を実施

12月20日、大宮キャンパスで、課外活動団体を対象とした「薬物乱用防止・闇バイト啓発講演会・課外活動団体総会」を実施しました。

近年、違法薬物の乱用や闇バイトによる若者の検挙数が急増していることをふまえ、「薬物乱用防止・闇バイト啓発講演会」には大阪府警察本部生活安全部少年課の田邊晃一氏をお招きしました。講演では特に大麻について、海外で合法となっている事情や背景についての話があり「海外で合法な国があるから大丈夫。という言葉に騙されないでください」との呼びかけがありました。闇バイトについては「バイト」ではなく『詐欺』や『強盗』という犯罪行為です。楽で高収入な仕事はありません。少しでもおかしいと思ったら応募してはいけません」との啓発がありました。

また、副学長・芦高先生および学生部・宇川部長から、「幹部として課外活動を運営するということは経営と同じ。部員と経費の流れにも気を配ってください」と激励があり、学生らは真剣に耳を傾けていました。



アイスホッケー部がインカレの氷上で格闘

12月25日、アイスホッケー部が「第97回日本学生氷上競技選手権大会(インカレ)アイスホッケー競技会」のファーストディビジョンに出場しました。本大会は、地区ごとに定められた枠数により出場権を得た代表ら32校がトーナメント方式で優勝を争うものです。

初戦の相手は奇しくも第95回大会で惜敗した日本体育大です。

序盤から攻撃的な試合を展開する同大に苦戦を強いられ第1ピリオドは3点を許してしまったものの、その後は堅い守りを敷き、第2ピリオドは無得点に抑えることに成功しました。第3ピリオドでも守備力が光るプレーが続きましたが、ペナルティにより1人を欠いて不利な状況に陥ったこともあり、最後は0-7で惜しくも敗れてしまいました。松井^{はるまさ}様大さん(電子情報システム工学科3年)は「前回に対戦した時に比べ失点を減らすことができ、これまで積み重ねてきた努力と成果を1つにまとめることができました。次は3度目の正直です。必ず勝ちます」とリベンジに燃えています。



円陣を組み気合を入れる選手ら

情報科学部長(研究科長兼任) 塚本 勝俊



大学と大学院で通算10年近く過ごしました。学部生時代が一番多くの時間を費やしたのはユースホステル部でのオープンホスティングとヘルパー活動で、オープンホスティングは近隣の中学生を引率してユースホステルに宿泊し、昼はデイキャンプやオリエンテーリングといった野外活動を行うものです。インターネットなど無い時代ですから中学校の校門でチラシを配るなど参加者集めに苦労しましたが、子供達のリーダー役、裏方の仕事など良い経験になりました。ヘルパーはユースホステルで宿泊者への食事の準備などを手伝うボランティアのことです。大学の長い休みのほとんどを高知県のユースホステルに滞在し、当時のベアレントさん(ユースホステルの経営者)や全国から来ていたヘルパー仲間は今でもかけがえのない友人です。

そのような生活も3年まで、4年から卒研開始で、やっと研究が生活の中心の大学生になったわけです。研究室選びには3年で参加した工場実習(今のインターンシップ)から大きな影響を受けました。大学での学びと企業の開発が自分なりに繋がったからです。研究室は教授以下5人の教員と学生を合わせて数十人の大所帯、ドクターの先輩は学年と年齢が全く一致せず、ババさんドクターも居て、ドクター1年がドクター3年に「〇〇」と呼び捨てにするカオスな世界です。研究室にはよく寝泊まりし、

電波を扱う研究室でしたので金網に囲まれたシールドルームというものがあり、持ち込まれたキノコが生えそうな古い布団に潜り込んで寝たものです。現代のインターネットサービスのインフラを築いた通信工学に関わる研究室でしたが、日頃は多忙な教員よりも先輩から研究指導を受けることが多く、年次が進むにつれて自然と後輩の研究指導もするようになっていました。学会発表も貴重な経験で、修了後の仕事の選択に一番影響したのは、やはり研究室での活動でした。大所帯の研究室らしく娯楽も大規模で、学外から20人以上のゲストを招いて2台のチャーターバスで毎年信州へスキーに出かけたのは良い思い出です。私にとっては大学4年が人生初のスキーでした。

この寄稿でいろいろと懐かしいことが思い出されました。学生時代に大学の内外の人とできた交流は、その後の仕事にも関連するからでしょうか、長く続くものが多く小中高時代とは違った大事さと良さがあります。是非、大学生時代に年齢や分野を超えた人との交流関係を培ってください。

大学院の給付制奨学金が
充実しています!

本学では学生が積極的に勉学に励み、充実した学生生活を送ることができるよう、特に学内進学者向けに、独自の給付制奨学金を整備しています。これら奨学金は勉学に意欲があり、それにふさわしい能力を持った学生の経済的困難を支援するものです。

特に「大学院入学前予約採用型給付奨学金」は原則として、「学内進学者入学選考」および知的財産学部は「早期進学」の入学者も援助する制度で、大学院生を強力にサポートしています。

【大学院の主な奨学金】 学内進学者に限定、いずれも給付制奨学金。

奨学金の種類	大学院 入学前予約採用型給付奨学金		大学院 グローバル人材奨励給付奨学金		大学院 特待奨学金	
	博士前期課程	専門職学位課程	博士前期課程	専門職学位課程	博士前期課程	専門職学位課程
給付額 (年額)	【学科内成績最上位者】 (1年次) 57万5千円 (2年次) 50万円 【学科内成績最上位以外の者】 (1年次) 37万5千円 (2年次) 30万円	【学科内成績最上位者】 (1年次) 60万円 (2年次) 50万円 【学科内成績最上位以外の者】 (1年次) 40万円 (2年次) 30万円	20万円		年間授業料の 全額相当額 (102万円)	年間授業料の 全額相当額 (123万円)
採用資格	本大学院所定の入試(※1)により合格した学生で、 学業・人物ともに優秀と認められる者		本学の学内進学者および 学内進学した在学生で、 TOEICスコアが所定の点数を満たす者(※3) ただし英語を母国語としていない者 (過年度実績:550点)		学部3年次までの成績が極めて優秀で、 経済的理由のため就学が困難と認められる者で、 TOEICスコアが所定の点数を満たす者(※3) (過年度実績:450点)	
採用定員	採用資格を有する者		採用資格を有する者		原則、各学科1人	
給付期間	2年間 (継続審査無し)		1年間 (在学時1回限り)		2年間 (1年次末に継続審査あり)	
出願について	入試出願時に合わせて出願(※2)		4月にUNIPAにて案内		被推薦者は本学所定の入試(※1)を受験すること	

※1 博士前期課程は学内進学者入学選考、専門職学位課程は学内進学者入学選考または、早期進学による所定の入試をします。
 ※2 専門職学位課程の早期進学者については、12月にUNIPAにて案内(予定)。
 ※3 公式認定証/スコアレポートの提出が必要です(得点は変更される場合があります)。オンライン実施分は対象外です。
 ◆上記のほか、テラサキ奨学金(工学研究科電気電子・機械工学専攻電気電子工学コースのみ対象)があります。
 ◆博士後期課程の奨学金についてはHPをご参照ください。
 ◆奨学金制度や金額は変更することがあります。

学生相談室
だより

変わっていくもの、変わらないもの

学生相談室カウンセラー 兵頭 俊宏

卒業生、修了生の皆さん、おめでとうございます。

卒業される方はもちろん、在校生の皆さんにとっても春は変化の季節ですね。入学前のあなた、あるいは1年前のあなたと、今のあなたは変わっているでしょうか?多くの人は変わったところと変わらないところがあると思います。大学という新しい環境の中で、経験を通して成長したところ、環境の変化に合わせてきたところ、努力して身につけたこと。きっと誰もが経験したことではないでしょうか。変化は新しい刺激になりますし、時にわくわくするものです。また、成長を実感すると充実感を感じたり、自信になったりします。一方で、「三つ子の魂百まで」ということわざがあるように、人はみな変わらないところも持ち合わせています。そんな変わらないところにやきもちをすることもありますが、学生相談室にも、自分を変えたい、変えないと、と思って相談に訪れる方がいます。ただ、時には自分を変えることよりも、変わらないところを受け入れることが、前に進むきっかけになることもあります。

目まぐるしく変化する現代社会で生きているからこそ、昔から変わらず好きなもの、馴染みのあるほっとする場所、小さいころから変わらない性格や癖、そういったものを大事にしてみてください。意外とそういうところに自分らしさが隠れていたりするものです。変わっていく自分、変わらない自分、どちらも大切に、これからの新しい道を歩んでいってください。



工大流就職支援 69

～就職NEWS～

卒業生の皆さん、大学ご卒業、大学院修了おめでとうございます。企業・公務員(行政)への就職、大学院への進学など、進路について真剣に考え悩んだ1年間、本当にお疲れ様でした。これまでの人生において、これほど深く自分に向き合ったことはなかったことでしょうか。しかし、悩み苦しんだ分だけ自分の奥底にある可能性に気づくことができたと思います。この経験が一回りも二回りも自分自身を成長させたことは間違いありません。どうか自信を持って、新しい舞台で大いに羽ばたいてください。そして、新しい舞台でさまざまなことに挑戦し、さらに大きくキャリアを進展させてください。

今後は大阪工業大学の卒業生キャリアサポーターの一人として、後輩たちの良き相談相手として、ご支援・ご協力いただけることを期待しています。最後に、学生生活のなかで得た学びの結晶を胸に、皆さんがご活躍されることを心よりお祈りしています。